

「う……う……」

「お、気がついたみたいだよ！
リリアは狩りが得意だけど、
まさか男を釣るのが上手いとはねえ……」

「もう、こう痺れ矢でビシツとパシツとなんだから♪

…ねえ、いいでしょ？ この人のおち○ちん…

下半身丸出しでこの森に入ってくるなんて…よほど下に自信があるのよV

……ね、おじさん？ 良かったら死ぬ前に私達とえっちな子作りしてみない？」

「はおッ！ 自殺しに来たはずの私がなぜか

縛りプレイでハーレム状態！

しかも交尾を求められているというマキシマム官僚待遇ッ！」

「あ、そうそう 言い忘れてたけどエルフに性を吸われると
体質の合わない男は死んじゃうけど…それはそれでOKよね？」

「いやあー…ッ！ 死ぬのいやあー…ッ！！」

「…おじさん 自殺しに来たハズじゃ…」

チロッ
チロッ

ギニ

ギニ

ちゅっ

しゅっ

「せ…せめて心の準備を…準備をーッ！」

「あ、おち○ちーん♪」

「ふふっ、ミアもおち○ほの気配感じて来たのね♪」

ほへへ… じゅるる… じゅるる…

「あふんツ！ なんとるふしだらさ！ なんとる吸い付き！
そしてこのまま続けられるとイキそうで私の命がレッドゾーンツ！」

「ちゆるるツ…じゅふほ…とここでこの人誰…？」

「ああ…リリアが拾ってきたおじさんだよ。なんでも
エルフと交われる体質だったらウチらの種族繁栄に協力してくれるんだって♪」

「まだなにも言っていない！ あふんツ！ 死ぬー！ 死ぬーッ！！」

「…なんかおじさんって
殺しても死なない人のような気がする…」

ふろふろ

しゅる

じゅるる

じゅるる

ちゅる

「ここまで来たら覚悟キメなよ！」

「命が…命が出るーッ！ アーッ！！」

どびゅるぶぶッ！

「ねえミア、味は、味はっ？」

「あん…濃くって苦いけど…おらしい…」

「死んだーッ！ 私 死んだーッ！！ …てあれ？」

どびゅるぶぶッ！！

「…とらうとは？」

「…とらう事？」

「私達との種族繁栄えつちがOKな体質の人のようです♪
…じゃあ、おじさん えつちお願いしますね！」

「……ふはっはッ！ 任せたまえ！
私は生き延びると信じていたッ、
皆に強い子を授けようぞッ！！」

どびゅるぶぶッ！！

どびゅるぶぶッ！！



「しかし、ダークエルフは物語とかじゃ高知能で近寄りがたいハズだが…タバサときたら……」

「あんvv ほら、もつと腰強く降つてよッ
ウチ、こんなんじゃ満足できないよ…v
ほーら、ほーらv」

「見た目通りのビッチだな…しかも昼間まで処女だったのに
もう私がリードされてるとか…いいけど……」

「そんなん関係ないッ！
楽しいッ えつちッ びつちッ
最高の種つけライフじゃないのさv
渋谷でJ〇買ったつもりで深く考えず
ウチと種付けたのしもよ おじさんッv」

はーん

はーん

「お前…絶対、俗世のナマモノだろ…？」

どっぴん

どっぴん

んんん



「はいらや……考えるのよしてツッ」

アッ

「びぐうッ！ ウチ クリちゃん特に敏感なんだから
そんなにいじっちゃだめえVV すぐにイっちゃうよおツ！」

びんツびんツ

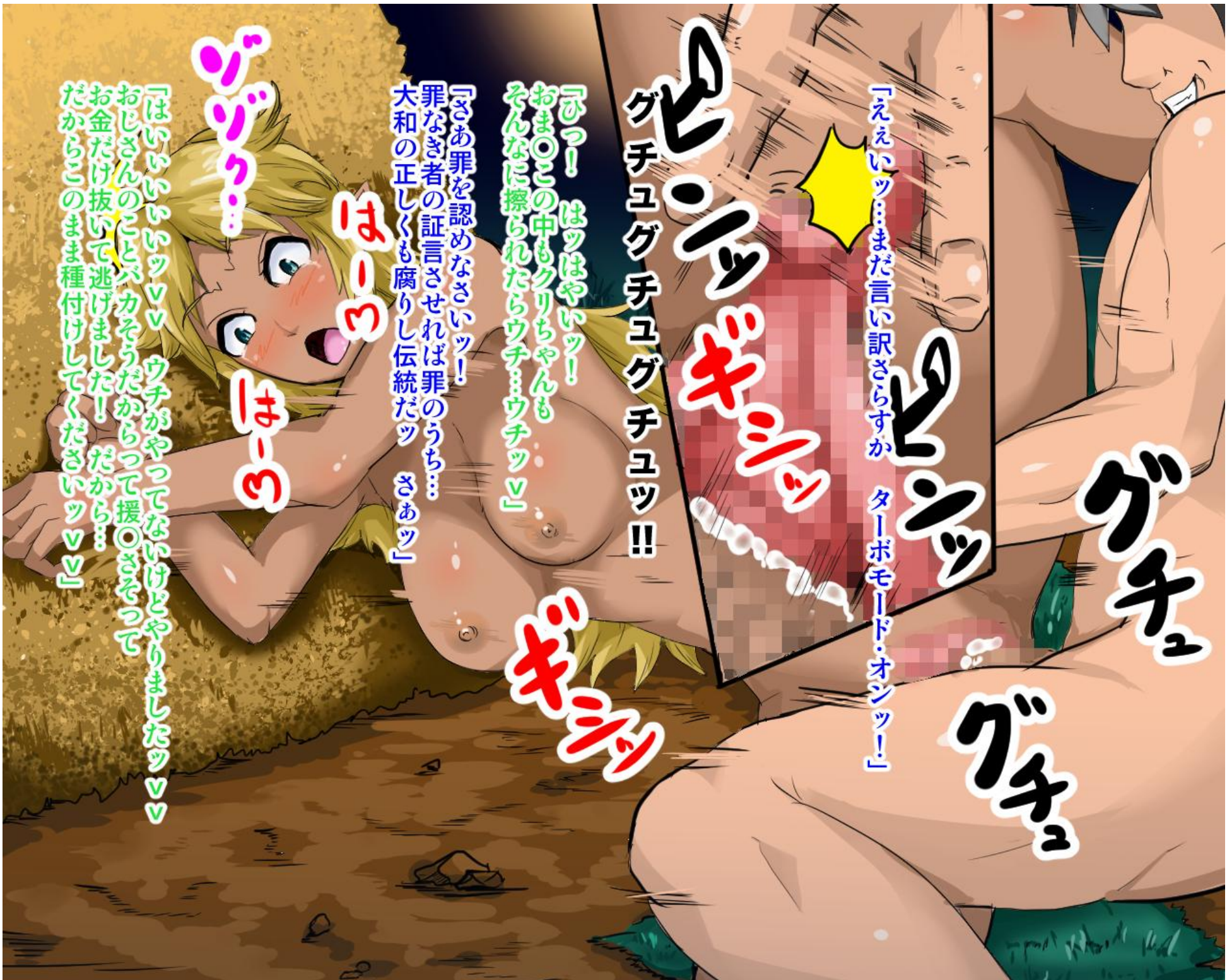
「謝れツ 過去に渋谷でJ〇に騙された
俺に深く深く謝れツ!! お前はなんか似てるんだよおおツ！」

「……いめんないツ ごめんないツ！」

でも騙したの間違いなくウチじゃないけど……
なんかだ……おじさん……可哀想だね(ナデナデ)」

ビクッ♡





「ええいッ：まだ言い訳さらすか ターボモード・オンッ！」

グチユグチユグチユツ!!

「ひっ！ はッはやいッ！
おま○この中もクリちゃんも
そんなに擦られたらウチ：ウチッ」

「さあ罪を認めなさいッ！
罪なき者の証言させれば罪のうち…
大和の正しくも腐りし伝統だッ さあッ」

びびっ

はーん

「はいいいいいいッVVV ウチがやってないけどやりましたッVVV
おじさんのことバカそうだからって援○さそって
お金だけ抜いて逃げました！ だから…
だからこのまま種付けしてくださいッVVV」

ギニッ

グチュ

グチュ

ビュッハッ

ハッハッ

ハッハッ

ハッハッ

ハッハッ

「よからうッ ぶぬぶぽオッ!!!」

ぶぶぶぶッ!!!

「ひやうッ!! はー...はー...
ウチ、ダーリンに種付け
されちゃいましたあッ」

「はっはっはW 良い...良いぞッ!
高ぶるハートとみなぎるビートッ!!
今宵はもつとバーニング・ラヴッ!
ヤーッてやるぜッ!」

へあ...

へあ...

「ひやうう...ウチね...ダーリンがもう騙されない様
ちやんと一緒にいてあげたいな...」

ビュッハッ

